

介護職員初任者研修 シラバス

事業者名：学校法人 榎本学園

1 職務の理解（6時間）			
指導目標	介護の基本事項や福祉全般の概要について、以降の研修との関連性を持たせて講義する。		
科 目	時間数	講義の内容及び演習の実施方法	
(1)多様なサービスの理解	2.5時間	【講義】 ・介護とは ・介護サービスの仕事とは	
(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	3.5時間	【講義】 ・介護とは ・介護サービスの仕事とは介護の資格とキャリアシステム 【演習】 介護職の仕事や現場が理解できるようにDVD資料を視聴し、居宅系・施設系サービス現場のイメージをグループに分かれて討議する。その後グループ毎に発表し、講師による解説を行う。	
合 計	6時間		
使用する教材	日本医療企画 介護職員初任者研修課程テキスト1「介護・福祉サービスの理解」		

2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）			
指導目標	支援の対象者への基本的な理解、介護職員が持つべき行動・態度が具体的に理解できるよう講義する。		
科 目	時間数	講義の内容及び演習の実施方法	
(1)人権と尊厳を支える介護	6時間	【講義】 ・人権の尊厳の保持 ・QOL (Quality of Life) の考え方 ・ノーマライゼーション ・虐待防止・身体拘束禁止 ・個人の権利を守る制度の概要 【演習】 在宅や施設における高齢者虐待の事例を基に原因・経過・対応・予防策についてグループに分かれて討議する。その後、講師による講評を行う。	
(2)自立に向けた介護	3時間	【講義】 ・自立支援 ・介護予防	
合 計	9時間		
使用する教材	日本医療企画 介護職員初任者研修課程テキスト1「介護・福祉サービスの理解」		

3 介護の基本（6時間）			
指導目標	利用者に関わる様々な職種との連携と理解、介護職の役割と求められる専門性について講義する。		
科 目	時間数	講義の内容及び演習の実施方法	
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5時間	【講義】 ・介護環境の特徴の理解 ・介護の専門性 ・介護に関わる職種	

(2) 介護職の職業倫理	1.5時間	【講義】 ・職業倫理
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5時間	【講義】 ・介護労働における安全の確保 ・事故予防 ・安全対策 ・感染対策
(4) 介護職の安全	1.5時間	【講義】 ・介護職員のこころの健康管理 ・介護職員のからだの健康管理 【演習】 腰痛予防・感染症予防（インフルエンザやノロウィルス）及び発生時の対応について演習を行う
合 計	6時間	
使用する教材	日本医療企画 介護職員初任者研修課程テキスト1「介護・福祉サービスの理解」	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）			
指導目標	福祉の制度の全体像・目的等についての概要と介護職の役割が理解できるように講義する。また、介護職が行うことができる医行為・医療職が行う医行為の違いを学び、医療的ケアの理解について講義する。		
科 目		時間数	講義の内容及び演習の実施方法
(1) 介護保険制度		3時間	【講義】 ・介護保険制度創設の背景と目的 ・介護保険制度の動向 ・介護保険制度のしくみ ・介護サービスの分類と種類 ・主な介護サービスの内容とサービス事業者・施設 ・保険給付以外の事業
(2) 障害福祉制度及びその他制度		3時間	【講義】 ・障害者自立支援制度の背景 ・障害者自立支援制度の基本的な構造 ・障害者自立支援制度のしくみと運営の現状 ・個人の権利を守るその他の制度（生活保護制度・成年後見制度・日常生活自立支援事業・虐待防止制度・その他の制度） 【演習】 知的・精神・身体障害者の事例を基に、利用できるサービスなどをグループ毎に討議する。その後グループ毎に発表し、講師による解説を行う。
(3) 医療との連携とリハビリテーション		3時間	【講義】 ・介護における医療と福祉の連携 ・介護職と医行為 ・リハビリテーション
合 計		9時間	
使用する教材	日本医療企画 介護職員初任者研修課程テキスト1「介護・福祉サービスの理解」		

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）			
指導目標	コミュニケーションの意義・目的・役割について理解し、介護の場面において効果的に実践できるよう講義する。		
科 目	時間数	講義の内容及び演習の実施方法	

(1)介護におけるコミュニケーション	3時間	【講義】 ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・コミュニケーションの技法 ・道具を用いたコミュニケーション ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際 【演習】 利用者の状況に応じたコミュニケーションの取り方をグループ単位で討議する。
(2)介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	【講義】 ・記録による情報の共有化 ・介護サービスにおける報告、連絡、相談 ・コミュニケーションを促す環境
合 計	6時間	
使用する教材	日本医療企画 介護職員初任者研修課程テキスト2 「コミュニケーション技術と老化・認知症・障害の理解」	

6 老化の理解（6時間）			
指導目標	加齢に伴う老化のしくみ・特徴について基本的な留意点を理解する。 高齢者に多い疾病や障害について基本的な事項を理解する。		
科 目		時間数	講義の内容及び演習の実施方法
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常		3時間	【講義】 ・老化に伴うところとからだの変化 ・老化に伴うところとからだの変化と日常生活
(2) 高齢者と健康		3時間	【講義】 ・高齢者と健康 ・高齢者に多い病気と日常生活上の留意点 【演習】 老化に伴う身体の変化による問題や注意点を個人ワークにてまとめた後、グループで討議する。
合 計		6時間	
使用する教材	日本医療企画 介護職員初任者研修課程テキスト2 「コミュニケーション技術と老化・認知症・障害の理解」		

7 認知症の理解（6時間）			
指導目標	認知症の医学的な仕組みや取り巻く状況を理解し、健康上の管理について講義する。 また、認知症の人への対応、実際の関わり方、家族への支援について理解する。		
科 目	時間数	講義の内容及び演習の実施方法	
(1)認知症を取り巻く状況	1.5時間	【講義】 ・認知症ケアの理念	
(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5時間	【講義】 ・認知症の概念 ・認知症による障害 ・健康管理	
(3)認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	1.5時間	【講義】 ・中核症状 ・周辺症状 ・認知症の利用者への対応 【演習】 認知症のメカニズム・特徴と問題行動についてグループで討議する。	

(4) 家族への支援	1.5時間	【講義】 ・ 家族への支援 【演習】 利用者の状況に合わせた家族に対する関わりのあり方をグループで討議する。
合 計	6時間	
使用する教材	日本医療企画 介護職員初任者研修課程テキスト2 「コミュニケーション技術と老化・認知症・障害の理解」	

8 障害の理解（3時間）			
指導目標	障害の概念、医学的な側面、支援に関する制度や仕組みの基本について講義する。 また障害者福祉の理念、介護の留意点、家族との関わり方について理解する。		
科 目		時間数	講義の内容及び演習の実施方法
(1) 障害の基礎的理解		1時間	【講義】 ・ 障害の概念 ・ ICFの考え方 ・ 障害者福祉の基本理念
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		1時間	【講義】 ・ 視覚障害 ・ 聴覚・平衡機能障害 ・ 音声・言語・咀嚼機能障害 ・ 肢体不自由 ・ 内部障害 ・ 障害の受容 ・ 知的障害 ・ 精神障害 ・ 高次脳機能障害 ・ 発達障害
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		1時間	【講義】 ・ 家族の心理 ・ 家族への支援 【演習】 障害児を抱えた家族の事例や障害者夫婦の事例を基に、支援の方法をロールプレイ学習を交えてグループで討議する。
合 計		3時間	
使用する教材	日本医療企画 介護職員初任者研修課程テキスト2 「コミュニケーション技術と老化・認知症・障害の理解」		

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（7.5時間）			
指導目標	介護に関する理論・専門的な技術について演習を交えて学習する。 効果的な介護サービスを提供することを念頭に置き、実際の介護の技術や介護過程の展開について演習を行う。		
科 目		時間数	講義の内容及び演習の実施方法
ア （基本知識の学習） 10時間	(1) 介護の基本的な考え方	4時間	【講義】 ・ 理論と法的根拠に基づく介護
	(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3時間	【講義】 ・ 学習と記憶の基礎知識 ・ 感情と意欲の基礎知識 ・ 自己概念と生きがい ・ 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因

ア (基本知識の学習) 10時間	(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3時間	【講義】 ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基礎知識 ・中枢神経系と末梢神経系に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・こころとからだを一体的にとらえる 【演習】 体温計などを用い、バイタルサインを確認する。
	(4)生活と家事	3時間	【講義】 ・家事と生活の理解 ・家事援助に関する基礎的知識と生活支援 【演習】 ・家事援助の技術、特に調理支援について実際に基本的な演習を行う。
イ 生活支援技術の講義・演習 (53時間)	(5)快適な居住環境整備と介護	3時間	【講義】 ・快適な居住環境に関する基礎知識 ・高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法
	(6)整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7時間	【講義】 ・整容に関する基礎知識 ・整容の支援技術 【演習】 ・衣服の着脱介護（座位・臥位での更衣） 講師1名と補助講師2名で実技指導を行う。
	(7)移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	9.5時間	【講義】 ・移動・移乗に関する基礎知識 ・さまざまな移乗・移動に関する用具とその活用方法 ・介護職員にとって負担の少ない移動・移乗の支援方法 ・移動と社会参加の留意点と支援 【演習】 ・身体の動かし方・支え方、褥瘡予防 ・歩行介助・車椅子の操作方法 ・移動・移乗の介護 講師1名と補助講師2名で実技指導を行う。
	(8)食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	4時間	【講義】 ・食事に関する基礎知識 ・食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ ・楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ・食事と社会参加の留意点と支援 【演習】 ・食事介助 ・口腔ケア 講師1名と補助講師2名で実技指導を行う。
	(9)入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6.5時間	【講義】 ・入浴、清潔保持に関する基礎知識 ・さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法 ・さまざまな入浴・清潔を保つための方法 ・楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 【演習】 ・入浴に関する介護（手・足浴、入浴、洗髪） ・清潔保持に関する介護（全身清拭、爪・髭剃り） 講師1名と補助講師2名で実技指導を行う。

イ 生活支援技術の講義・演習（53時間）	(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.5時間	【講義】 ・排泄に関する基礎知識 ・さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法 ・爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 【演習】 ・排泄介助（基礎知識、尿器・便器、Pトイレ） ・おむつ交換 講師1名と補助講師2名で実技指導を行う。
	(11) 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.5時間	【講義】 ・睡眠に関する基礎知識 ・さまざまな睡眠環境と用具の活用方法 ・快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 【演習】 ・ベッドメイキング・体位変換技術 講師1名と補助講師2名で実技指導を行う。
	(12) 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	7時間	【講義】 ・終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ ・「死」に向き合うところの理解 ・苦痛の少ない死への支援 【演習】 ターミナルケアに関するDVD資料を視聴し、介護職の役割について討論する。また、施設における事例を基に、看取りケアのプラン作成について演習を行う。
ウ 生活支援技術演習（12時間）	(13) 介護過程の基礎的理解	6時間	【講義】 ・介護過程の展開 【演習】 ・在宅や施設入所高齢者の事例を基に、介護過程の目的や基本的な流れについて個別援助計画の作成し、グループで討議する 講師1名と補助講師2名で実技指導を行う。
	(14) 総合生活支援技術演習	6時間	【講義】 ・事例による展開 【演習】 ・事例をもとに、アセスメントから評価分析までの過程について実技演習を行う。 ・演習後、グループで改善点・課題を討議する・ ・講師による講評を行い、理解を深める。 講師1名と補助講師2名で実技指導を行う。
合 計		75時間	
使用する教材	日本医療企画 介護職員初任者研修課程テキスト3 「ところとからだのしくみと生活支援技術」		
使用する機器・備品	浴衣、パジャマ、ヘアブラシ、タオル、爪切り、髭剃り、歯ブラシ、洗顔料、車椅子、介護用ベッド、マットレス、クッション、枕、スライディングボード、リフト、杖、歩行器、食器類、浴槽（普通浴槽・機械浴槽）、入浴用いす、浴槽用手すり、滑り止めマット、洗面器、ドライヤー、洗髪用パッド、ピッチャー、温度計、ポータブルトイレ、便器、尿器 等		

10 振り返り（4時間）			
指導目標	研修の全課程を振り返り、習得した知識・技術について再確認する。		
科 目	時間数	講義の内容及び演習の実施方法	

(1) 振り返り	3時間	【講義】 ・全課程を振り返り、学習したポイントの再確認
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1時間	【講義】 ・今後のキャリアへの展望 ・継続的な学習 【演習】 ・研修を通じて学んだ介護についての要点や今後のキャリアについて個々に発表する
合 計	4時間	
使用する教材	日本医療企画 介護職員初任者研修課程テキスト3 「こころとからだのしくみと生活支援技術」	